

予算特別委員会から

(2・3ページ)

平成15年度一般会計歳入歳出予算の審査状況から、主なものをお知らせします。

市民フォーラム

閉塞した時代の中、本予算は、市民の暮らしに安心と活力を与え、積極的な予算と評価する。

歳入では、税収減を補うため、一時的に基金を取り崩し、市民に安心と希望をもたらしている。

また、厳しい状況に置かれている競走事業からの5億円の繰入れは、大変評価される。

一方、歳出では、再開発ビルの子育て支援中核施設の設置、複合福祉施設の設計、ゆったりリゾー

トここの旅事業の開始、コミュニティバスの本格運行など、多くの市民の要望が盛り込まれている。

市民が主役のまちづくりに、確実に前進しており、更なる行政サービスの充実を努力することを求め、賛成意見とする。

府中市議会市政会

本予算は、新しい時代にふさわしい施策への転換を図る工夫と意欲が感じられ、現状の閉塞感を打ち破る積極的予算であると評価する。

歳入では、都市計画税の税率を据え置き、市民の負担の軽減を図る一方、市債や基金を活用し、財源を確保している。

また、歳出では、本年12月に開院予定の榊原記念病院の市民ベッ

トの確保、コミュニティバスの本格運行、重点施策である子育て支援の中核施設の設置など、今の時代の市民ニーズに、十分応えたものである。

本予算の執行にあたっては、市民の信頼に応えるよう要望し、賛成の意見とする。

日本共産党府中市議会議員団

市は、財政が厳しいことを理由に市民サービスを削る一方、大型公共事業は見直しを行わないまま進めてきた。

しかし、市の財政力指数は高く、更に400億円を超える基金もあり、市民サービスを削る状況にはない。利子運用基金から総額6億2000万円を取り崩し、市民が求めている福祉サービス等に活用されたことは評価する。しかし、就学援助費の所得制限強化や再開発事業への際限のない税金投入など、再検討すべき課題は多い。

市民の暮らしを支える市政への転換を強く求め、本予算に反対する。

生活者ネットワーク

平成15年度一般会計予算では、臨時財政対策債を10億1700万円借り入れ、土木費等の投資的経費に充当している。府中駅南口再開発事業では、子育て支援中核施設となるスペースを完成までに、12億5000万円で購入するとしている。

後年度負担となる債務で投資的経費を拡大することは、不況の時代に市民感覚から遠く、再検討が必要である。

今後も伸びが予想される、福祉関係等の必要不可欠な経費を確保するため、投資的経費の内容を見直し、生活重視に転換を図る予算配分を求め、本予算に反対する。

市民の暮らしを支える市政への転換を強く求め、本予算に反対する。

賛成討論

反対討論

歳入

固定資産税減収の理由は

委員 今年、固定資産税の評価額が、三年に一度、見直される年である。税収を見ると、前年度と比べ約4億円の減収となっているが、その主な理由を聞きたい。資産税課長 土地については、地価は下落しているが、評価額に対して課税標準額はまだ低く、税額は上昇する。しかし、負担の調整措置により、税収は、ほぼ横ばいを見込んでいる。

一方、家屋については、建築物価などの下落や経過年数に応じ、税収は大幅に下がっている。減収の対象となる物件は、新築後20年ぐらいまでの家屋で、木造の約6割と非木造の約8割がその対象となる。

使用料の市外料金設定

その増収額は

委員 今回、使用料・手数料の条例が改正され、新たに市外料金が設定された。

そこで、このことでどのぐらい増収があるか聞きたい。

また、郷土の森博物館の観覧料の設定内容を聞きたい。

財政課長補佐 今回の市外料金を導入したことによる増収分は、1661万4千円を見込んでいる。

社会教育課長補佐 郷土の森博物館の観覧料は、ここで、原価計算等に基づき見直しを行い、200円の観覧料を設定した。市民が利用する場合、運営費の一部が市税であることや市民感情に配慮し、100円の減免をすることとした。

歳出

NPO・ボランティア活動今後の事業計画は

委員 NPO・ボランティア活動センターが開設され約半年が経つ。平成15年度は、フォーラムの開催や市民協働推進事業等を行うとしているが、具体的な計画について聞きたい。

NPO・ボランティア支援担当主幹 協働の推進を目指して、フォーラムは、NPO間の連携づくりや市民との交流を図られるイベントを計画している。市民協働推進事業は、委託による協働形態を試行するため、NPOから社会貢献活動の事業企画を募り、公開により審査決定から実施評価まで行う形を考えている。

また、センターにスタッフを配置し、情報提供などの充実を図っていききたい。

国際理解教育推進事業

その目的と考えは

委員 昨年度までの小学校の英語教育推進事業がなくなり、中学校と同じく国際理解教育推進事業が予算化された。

国際理解教育という、英語を主体とした教育が連想されるが、アジアの国との交流も必要と考えるがどうか。

指導室長 国際理解教育の目的は、世界各国の人と親しみ国際感覚を養うことで、事業内容は、従来と変更はなく、充実させたものである。現在、

コミュニティバス新たなルートの計画は

委員 コミュニティバスが通ることによって喜んでいる市民が多い。家の近くにもぜひ通って欲しいとの声がある。今後、新しいルートは、どのような形で計画の中に盛り込まれるか聞きたい。

府中市美術館鑑賞教室の取組みは

委員 府中市美術館で行う鑑賞教室は、情操教育を進め、未来ある子供たちの育成を考えると評価できる。そこで、鑑賞教室の今後の取組みについて聞

きたい。

美術館副館長 鑑賞教室は、各学校が指定する小学校4・5・6年生を対象に、学年単位で行っている。事業内容は、事前に美術鑑賞の注意事項を説明した後、作品を鑑賞している。普段、実際に美術作品に触れることは少ないため、感受性豊かな時に、機会を与えられる事業として考えている。今後、府中市美術館の特色として取り組みたい。



▲異文化理解交流授業から(白糸台小学校児童)

各学校の考えで、外国の人との交流や韓国や中国の学校と姉妹校となるなど、活発に活動している。

欧米偏重ということではなく、アジアも同じ扱いで国際教育に当たっている。